

上山市振興計画推進会議の検証結果概要

1 会議概要

- (1) 開催日：令和4年7月6日（水） 9：00～16：00
- (2) 場所：大会議室、政策会議室
- (3) 参集者：上山市振興計画推進会議委員11名、副市長・事業担当課長
- (4) 協議内容：第7次上山市振興計画後期基本計画（計画期間：令和2年度～令和5年度、77施策329事業）について検証を実施した。

また、第2期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：令和2年度～令和6年度）に位置付けられている事業、地方創生推進交付金を活用した事業及び新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業についても検証を実施した。

2 検証結果の主な内容

■ 全体

・結婚イベントは、商工会青年部でも実施してるが、参加者が非常に少ない。福祉課ではなく、商工や観光関係の部署が担当すべきと考える。

・先日 KDDI の回線トラブルの際、市民へ周知する対応を取られたかどうかを消防関係へ確認したところ、行っていないと回答された。報道関係者としては、どういことなのだろうかと疑問を持ったところである。山形市をはじめ、他自治体では周知を行っていた。適時適正な情報は、行政情報だけでなく、一般的な情報も含まれると思われるため、市民の安心へも結び付くので、今後は対応をいただきたい。

・施策3-5-1において、宿泊者数のみが目標値となっているのは疑問である。物産、宿泊、飲食を含め、客単価も考える必要がある。市内を周遊させて、お金を落としてもらうことが重要ではないか。これらを意識した目標設定をされたい。

・施策3-5-1の事業概要において、各種媒体を活用した情報発信とあるが、情報発信してくれた会社の実数などは把握していないのか。はっきり言って、上山市は他市よりも情報発信力が弱い。情報発信した内容が、効果があったのか検証を行ってみても良いのではないのか。ワインバルくらい大きなイベントであっても、報道した会社がどれだけであったのか疑問。

・施策3-5-2の目標値である、旅行商品・観光メニュー化件数がこれだけ目標に対して実績が伸びたのであれば、目標値を再検討する必要があるのではないのか。

・分科会で上山市の住みよさランキングの話を伺った。様々な指標を活用し、順位付けがされていると聞いたが、市としては、合計特殊出生率と市民所得に対する納税額の向上が重要であると話を伺った。難しい課題であるが、企業誘致をはじめとした人口減少対策や子育て施策が重要である。

・有事の事態を想定したときの、市としての取組を一市民として一度伺ってみたい。⇒非常時の体制づくりは、実施している。有事の事態が発生した場合の市民の安全安心を守るための取組、準備を行っている。(副市長 回答)

・今までは保育園等の枠を増やすことがメインであったが、これからはどう有意義に過ごせるかが子育て環境の充実につながるのではないかな。まだ他自治体でも手を出せていないような、子育て環境の中身で勝負する施策に踏み込めると良い。

・資料4において、宿泊客数、令和2年度において策定時の実績と比較して半減している。この状況をどう認識して、どうしていくかを考えていかなければならない。コロナ前に策定した計画が既に、現状にそぐわないものになっているので、柔軟に変更を行い、市民にとって意味のある生きている計画にすべき。

・全体的に施策数が多い。もう少し各施策を関連付け、テーマを絞り、質を高める必要があるのではないかな。その方が、実行性が高まるのではないかな。また、PDCAサイクルにおける、PDCまではきっちりやれるが、次のAを出来ていないところが多い。実施できなかった要因を深掘りし、次の計画に生かしてもらいたい。

・稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」(内閣府発表)に山形市、上山市及び鶴岡市が選ばれている。これは、ポテンシャルが高いということであるため、総花的ではなく、稼げる町を目指し、もう少し特色や強みに特化した事業計画にした方が良いのではないかな。稼げるまちになれば、移住者も増え人口減少対策にも結び付くのではないかな。

・介護保険事業者の立場として、また、地元の就労の場として、アクティブシニアの活躍の場として上山市に今後も貢献して行きたいと考えているので、今後もよろしく願いしたい。

・市の施策の目標値となっている様々な満足度の調査結果について、放課後子ども教室の満足度が一番高く、公園の満足度が一番低い。満足していない理由を、本日聞くことが出来なかったなので、今後は分析し見える化してもらいたい。

・石川県野々市市は、上山市と同様に県庁所在地の隣りに合っている自治体である。野々市市は住みよさランキングで上位に位置しているので、参考にしてみてはどうか。

・合併による市域拡大等による要因もあると思うが、鶴岡市や酒田市は取材の要望が非常に多い。上山市は、非常にコンパクトかつ、手の届くところに観光資源があるため、ポテンシャルが高いと思う。知人から、上山市は良いところだが、ちょっと物足りない。それぞれに特化したところがないなら、他の場所で良い、と話をされたことがある。それぞれの特色をいかす取組をしてもらえれば良いのではないか。

・一回落ち込んだ状況を元に戻すのは非常に難しいところ。状況回復に向け、様々な取組を実施するのであれば、報道者として、県民、市民に伝えていきたいと考えている。

・危機管理能力が問われ、様々なことを学んだ1年間であったと思う。地域の繋がりが希薄になったと見受けられる。社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携して、孤立対策をもっと実施してもらいたかった。

・検証委員会で検証していただき、各計画に対して指摘してもらうことが、実効性のある、より有意義な次期振興計画を作っていくために重要である。

■ 第1章 はぐくむ「笑顔いっぱいのもち」

1-1-1 結婚に導く環境づくり

- ・結婚支援は、イベント開催が重要であり、担当課が福祉課ではなく、商工課、観光課が担当すべきではないか。
- ・イベントなどを実施していても、開催自体市民はわからないため、周知が重要である。
- ・結婚サポーターの成果があがっていないため、今後の取組が重要である。
- ・結婚を望む方が少なくなっている。イベントなどを実施してもしょうがないので、いかに子育て世代の移住を促進するかが重要である。

1-1-2 子育てに関する施設利用と経済的支援の充実

- ・総合子どもセンターの利用者数について、近隣に同様施設が完成したが、目標値はこのままでよいのか。
- ・出生数が低い本市において、総合子どもセンターの利用者数の目標を達成するのは、よほどの策がなければ困難ではないか。
- ・子ども子育て会議の開催数が0回である。当会議は、子育ての根幹にかかる市が主催する会議であり、外部の委員が参加していると言えども、コロナを理由に開催しないのではなく、リモートなどで開催すべき。

1－2－1 生涯学習環境の整備

・公民館事業に参画した人数について、目標値に対して実績が約半分であるが、コロナ収束後も目標値の達成は厳しいのではないか。

1－3－2 特色ある学校づくりの実現

・英語教育について、偏差値が全国平均を上回らなかった理由が、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるものとしているが、新型コロナウイルスの感染拡大については、全国共通である。全国平均を上回らなかった理由になってない。
・中学生のコミュニケーション力が向上するような施策を考えるべき。
・子どものニーズについてしっかり把握したうえで、施策を検討していただきたい。

1－5－1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

・目標値となっている「運動が好きな市民の割合」が低い。クアオルトウォーキングを実施している人も対象に含まれているとのことであれば低すぎる。

1－5－3 スポーツを通じた地域活性化の推進

・スポーツの事業が地域活性化につながるかどうか、改めて目標を精査していただきたい。

■ 第2章 やすらぐ「元気であたたかいまち」

2－1－1 生涯を通じた健康づくりの推進

・各種予防教室開催数が増えていることは評価できる。しかし、これだけでは、健康課題が解決出来るのか疑問が残る。

2－3－1 地域支援事業の充実

・認知症サポーターは今後増えていくと予想される。地方の医療体制でも大きな問題である。
・蓬仙園が新しい建物に移行し、全室個室の形態となるため、利用料負担が増えると予想されるが、予算も増加していくのではないか。

2－4－1 国民健康保険等の充実

・ジェネリック利用率が他の自治体は60％程度であるなか、80％超は驚くべき数値である。

2－6－1 高齢者の生きがいづくり

・高齢者サロン等が楽しい施設でなければ、利用者が増えないのではないか。

2-7-1 障がい福祉サービスにおける相談支援の充実

・今後、扶助費が増えていくため、このことを意識して次の第8次振興計画の施策につなげていく必要がある。住みよいまちづくりを目指すため、今後のことを考えて、ある程度の予算措置を考えていく必要がある。

・財政努力により福祉施策を充実させているのであれば、高齢者も住みやすい町として謳っても良いのではないか。どんどん、住みやすい地域に転出が進んでしまう。

■ 第3章 にぎわう「魅力と活力あふれるまち」

3-1-2 農産物販売額の拡大

・地球温暖化に伴い、さくらんぼ、西洋梨をはじめとした農作物の適地が変化してきている、今後の農作物ブランド戦略の検討をするべきではないか。

3-1-3 有害鳥獣対策の推進

・有害鳥獣被害が農業に限らず、市民や観光客にも及んでいるため、わなを今より更に増やすことも必要ではないか。

3-1-4 豊かな森林資源の活用

・ウクライナ戦争の影響で木材も高騰している。市産木材を積極的に生産・活用できるような取り組みがあれば、林業も活性化していくのではないか。

3-2-1 中心商店街の活性化

・上山市においても、地元で利用できるクーポン発行などの取組もあったが、取組としては非常に良いと考えている。地元の物を地元で消費することは、商店街の活性化につながる。

3-2-2 個店の魅力向上、経営の安定化及び創業支援

・ポイント還元事業について、昨年度実施し、多くの人が利用したと推察される。しかし、還元事業が終わったとたん、市内の参加事業者のほとんどの店舗から、ポイントのQRコードが撤収されたと聞いている。本来は、キャッシュレス決済利用の拡大も、目的であるはず。市内参加事業者から、ポイント還元事業の趣旨を理解してもらう必要があるので、その趣旨が伝わるように、次の事業を展開していただきたい。

・またQRコード決済の普及だけでなく、クレジットカードの決済も一緒に普及できると良い。インバウンドが戻ってきたときに、観光客から町にお金を落としてもらう準備が必要。

3-3-1 産業拠点形成及び企業誘致

・かみのやま温泉インター産業団地の分譲が完了したが、現在の世の中において、企業誘致は積極的に実施しないと実現できない。企業誘致を行うには、良い場所を準備しなければならないため、市としても、良い立地場所の整備を検討していただきたい。

3-4-1 人材の確保・定着、3-4-2 働きやすい職場づくりの推進

・介護施設の立場においても、良い職場づくりを進めている。地域の中の働く場所として、待遇も年々改善している。アクティブシニアも介護施設で働ける取組も進めているため、今後も市の雇用に貢献していきたいと考えている。
・世界情勢を見据えた、働く場の確保と人材確保を考えていくべき。

3-5-1 周遊の拠点となるための戦略的な観光振興

・目標値となっている観光客数の目標達成が困難となっている中、どう達成していくか、また、変わってしまった社会にどう対応していくかが重要。令和4年度以降、観光プロモーションに関する市の予算が不足している。投資の中でも、形に見える投資と見えない投資がある。観光は、投資に対する結果がみえにくいのは確かだが、今後、観光客需要の獲得を考えた時、予算がかなり不足しているのではないか。
・国内だけではなく、海外向けの情報発信も強化することが重要である。

■ 第4章 うるおう「快適に暮らせるまち」

4-1-1 土地利用の適切な規制

・ファサード改修事業については、建物の外観と理解しているが、駅前などは、ベビーカーなどが利用しにくいいため、道路の整備もセットで進めていくべき。

4-2-1 魅力的な景観づくりの推進

・上山城周辺の休館した旅館もあり、温泉街に活気がない。他の温泉街のように、見た目とともに一体感のあるまちづくりが重要。

4-5-1 3Rの推進

・ごみを出さないということも重要であるが、生ごみ処理機など、ごみを他のものに変える装置を導入させるなどの施策が必要ではないか。

4-7-1 誰もが利用しやすい公共交通の整備

・市営バスについて、土日にも運行していることは利用者にとってよいことである。

4-8-1 道路環境の充実

・目標値となっている「道路への住民満足度」について、目標と実績に乖離があるため、市民に理解しやすい理由を記載するべきである。

4-10-1 安全な住宅環境づくりへの支援

・目標値となっている「空き家等の利活用件数」について、一見多いように見えるが、他自治体では100件を超えているところもある。そのような自治体は工務店等と連携して実施している。NPO法人かみのやまランドバンクだけでは限界があるため、そのような取組が重要である。

4-13-1 ICTを活用した行政サービスの充実

・目標値となっている「電子申請の申請件数」について、令和3年度実績が、ふるさと納税返礼品提供事業者説明会受付事務等の実施により増えたとのことであるが、令和4年度以降の目標値についても、実績を踏まえ変更すべき。

4-14-1 自然災害に対する防災・減災体制の強化と自主防災組織の活性化

・企業でも防災意識が高まっていることから、企業へ対しても、防災ファイルの配布について、周知をお願いしたい。

■ 第5章 つながる「みんなで創る住みよいまち」

5-1-1 多様な担い手が参画するまちづくりの推進

・コロナの影響が解消すれば、まちづくりに対する取組状況も回復すると思われるので、コロナと共生しつつ、かみのやまらしいまちづくりを進めて行くべき。

5-3-2 男女共同参画の推進

・男女共同参画が社会的に重要視されているなかで、昨年度と比較し、市の審議機関等の女性委員が減少しているため、改善の取組が必要でないか。

5-4-1 市民交流の拡充

・コロナ禍においても、Web機材を活用するなど工夫を凝らすことで、交流は可能であるので、様々な形で交流を進めていく必要があるのではないか。

5-5-1 移住受け入れ環境の整備

・移住実績が好調なのであれば、目標値を上方修正してもよいのではないか。

■ 第6章 おすすめ「施策実現のための行政運営」

6-1-2 シティプロモーションの推進

・ふるさと納税の返礼品事業者において、市内事業者だけで新規登録は非常に大変であると考えている。『形だけ一度事業所を上山市に構えたので、返礼品事業者として取り扱ってほしい』という事業者のニーズが多い。こうした状況が正しいのか疑問である中、新規登録事業者数を目標値に設定するということが自体、問題があるのではないか。

6－4－1 職員の採用、研修及び人事評価

- ・人材確保は重要であるため、育成費用にお金をかけるのは重要である。
- ・県では職員の副業を認めているが、上山市においても検討を行っていく必要があるのではないか。

以 上